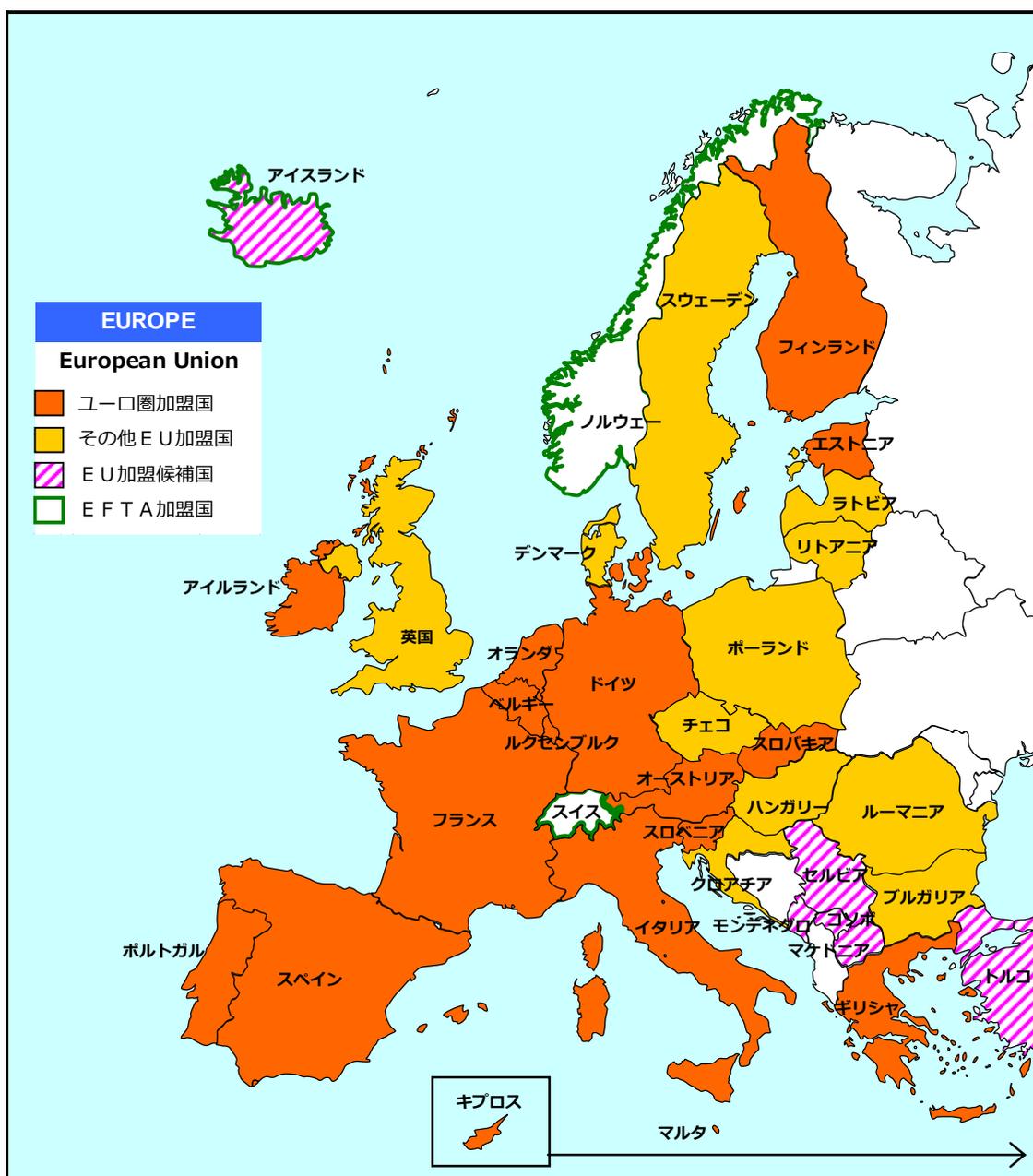


2013年7月22日 全13頁

# 欧州経済アップデート (2013.7)

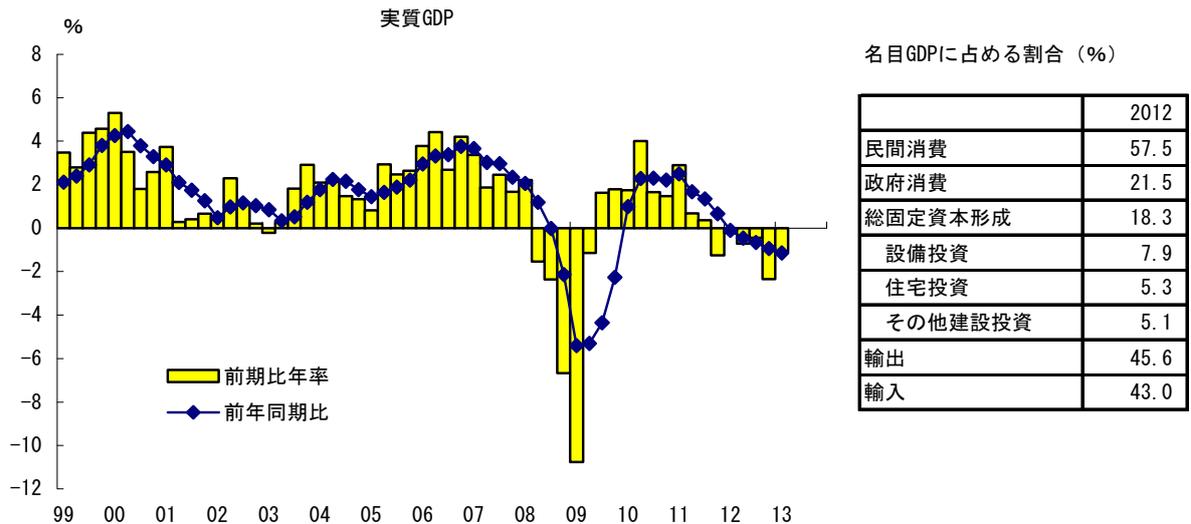
経済調査部  
研究員 矢澤 朋子



出所：三角形「白地図専門店」サイトより大和総研作成

## ユーロ圏 GDP

- 13年Q1のGDP成長率（3次推計）は前期比-0.3%と2次推計からわずかに下方修正
- すべての需要項目が下方修正されたが、特に総固定資本形成が大きく引き下げられた。うち、設備投資は同-2.0%となり、09年Q2以来の大幅なマイナスとなった
- 個人消費はかろうじてプラス成長を維持。純輸出もプラス寄与を維持した



ユーロ圏の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	10Q1	10Q2	10Q3	10Q4	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1
実質GDP	0.4	1.0	0.4	0.4	0.7	0.2	0.1	-0.3	-0.1	-0.2	-0.1	-0.6	-0.3
個人消費	0.2	0.2	0.3	0.5	-0.0	-0.5	0.3	-0.8	-0.2	-0.5	-0.1	-0.6	0.0
政府消費	-0.4	0.1	0.4	-0.0	-0.2	0.0	-0.1	0.1	-0.1	-0.3	-0.1	0.0	-0.2
総固定資本形成	-0.2	1.8	0.1	-0.6	2.2	-0.4	-0.5	-0.6	-1.3	-1.8	-0.8	-1.5	-1.9
設備投資	1.9	2.8	1.3	0.9	1.7	0.4	0.3	-0.6	-1.0	-1.6	-1.1	-1.5	-2.0
住宅投資	-0.2	1.9	-0.6	-1.7	2.9	-0.8	-0.9	-0.8	-0.7	-1.7	-0.3	-1.5	-1.5
その他建設投資	-3.1	0.4	-0.8	-1.9	2.2	-1.3	-1.2	-0.4	-2.3	-2.3	-0.9	-1.5	-2.2
輸出	2.8	4.5	1.9	2.0	1.8	0.5	1.3	0.0	0.8	1.5	0.8	-0.9	-0.9
輸入	3.3	4.1	1.3	1.8	1.5	-0.1	0.5	-1.4	0.0	0.3	0.2	-1.2	-1.2

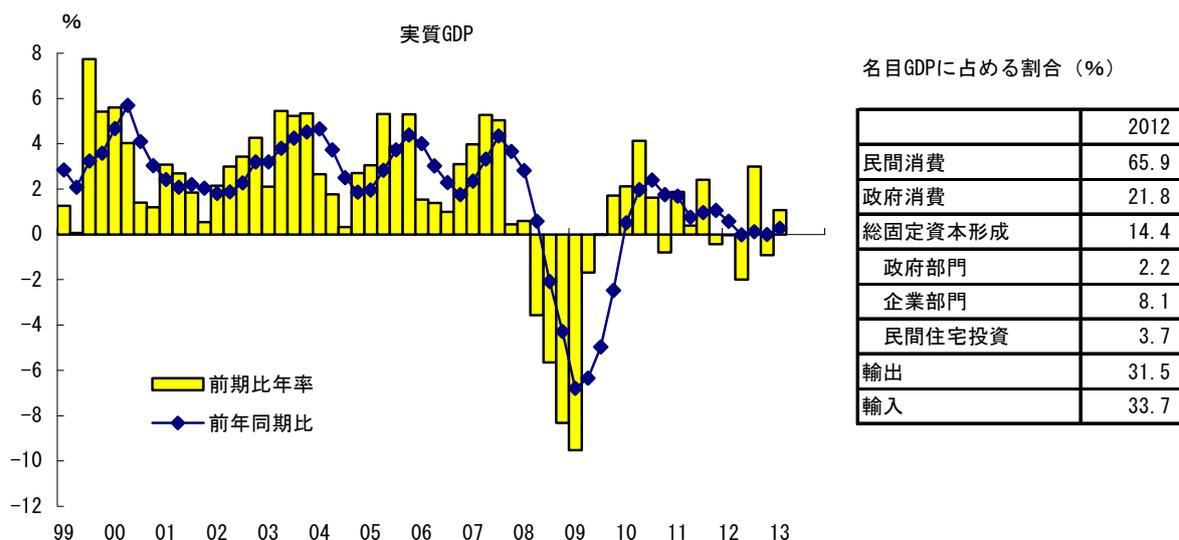
ユーロ圏の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

	10Q1	10Q2	10Q3	10Q4	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1
実質GDP	0.43	0.99	0.41	0.37	0.72	0.17	0.09	-0.31	-0.05	-0.18	-0.11	-0.59	-0.27
個人消費	0.11	0.12	0.15	0.30	-0.00	-0.27	0.16	-0.43	-0.10	-0.29	-0.08	-0.35	0.01
政府消費	-0.08	0.02	0.08	-0.01	-0.05	-0.01	-0.03	0.03	-0.03	-0.06	-0.03	0.01	-0.03
総固定資本形成	-0.03	0.34	0.02	-0.11	0.41	-0.09	-0.09	-0.11	-0.24	-0.34	-0.15	-0.27	-0.34
設備投資	0.16	0.23	0.11	0.08	0.14	0.03	0.02	-0.05	-0.09	-0.14	-0.09	-0.13	-0.16
住宅投資	-0.01	0.10	-0.03	-0.09	0.15	-0.04	-0.05	-0.04	-0.04	-0.09	-0.01	-0.08	-0.07
その他建設投資	-0.17	0.02	-0.04	-0.10	0.11	-0.07	-0.06	-0.02	-0.11	-0.11	-0.04	-0.07	-0.10
在庫変動	0.57	0.30	-0.11	0.05	0.23	0.27	-0.28	-0.36	-0.04	-0.03	-0.14	-0.05	-0.04
輸出	1.10	1.80	0.79	0.87	0.76	0.21	0.56	0.00	0.36	0.69	0.37	-0.43	-0.40
輸入	-1.25	-1.58	-0.51	-0.72	-0.61	0.05	-0.21	0.56	-0.02	-0.14	-0.08	0.49	0.51
純輸出	-0.15	0.22	0.28	0.14	0.15	0.26	0.34	0.56	0.35	0.55	0.29	0.07	0.11

出所：Eurostat、Haver Analytics データより大和総研作成

## 英国 GDP

- 13年Q1のGDP成長率（3次推計）は前期比+0.3%と2次推計から変わらず
- しかし、内訳を見ると、個人消費は12年Q4が前期比+0.4%、13年Q1が同+0.5%に大きく上方修正。縮小傾向にあると思われていた個人消費の拡大が示された
- 13年Q1の総固定資本形成も上方修正され、4四半期ぶりの前期比プラス成長となった



英国の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	10Q1	10Q2	10Q3	10Q4	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1
実質GDP	0.5	1.0	0.4	-0.2	0.5	0.1	0.6	-0.1	-0.0	-0.5	0.7	-0.2	0.3
個人消費	-0.8	1.5	-0.0	0.4	-1.1	0.0	-0.1	0.6	0.1	0.6	0.2	0.4	0.5
政府消費	-0.3	0.5	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	-0.4	0.4	2.7	-0.9	0.9	0.8	0.1
総固定資本形成	5.9	-1.7	4.1	-3.8	-4.8	6.5	-1.1	-1.2	4.1	-2.1	-1.6	-4.9	0.2
政府部門	-4.1	-6.2	4.0	-2.2	0.0	-13.3	5.1	-4.8	12.3	1.4	-9.1	2.4	-6.0
企業部門	8.5	-10.3	4.1	-4.0	-5.9	13.6	-1.2	-1.5	7.2	-4.8	-0.4	-10.3	-1.9
民間住宅投資	-1.8	12.4	3.2	-4.8	8.2	-5.2	-3.1	-2.7	-1.5	6.7	-6.1	-2.6	-
輸出	0.3	4.0	0.3	2.6	3.8	-5.2	1.1	4.7	-1.7	-0.6	1.9	-1.9	-0.1
輸入	1.9	2.7	2.5	1.1	-2.6	-0.7	1.0	1.1	0.4	1.6	0.6	-1.0	-2.0

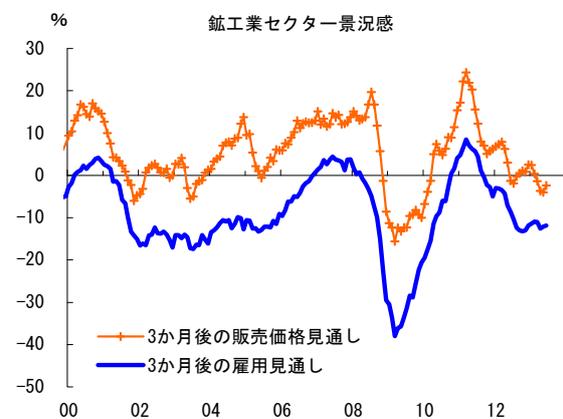
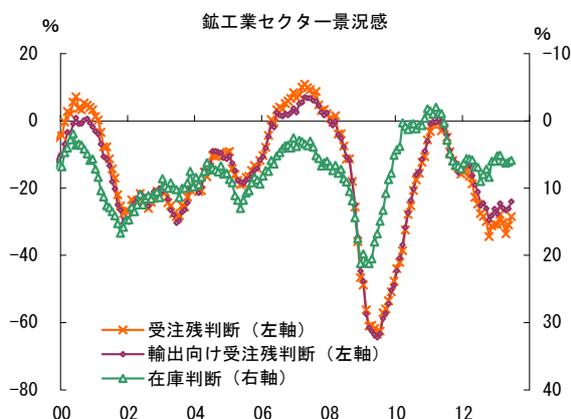
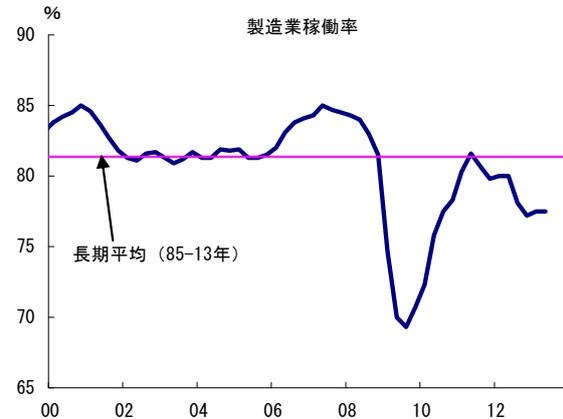
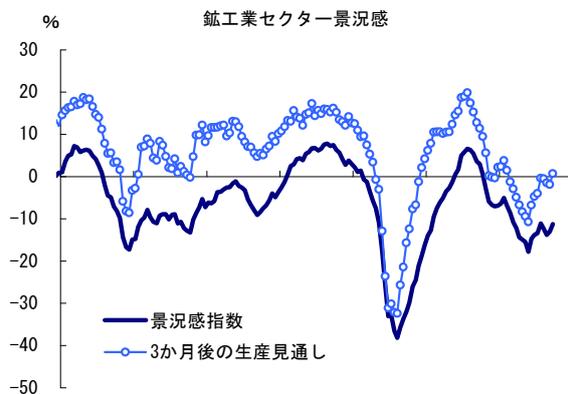
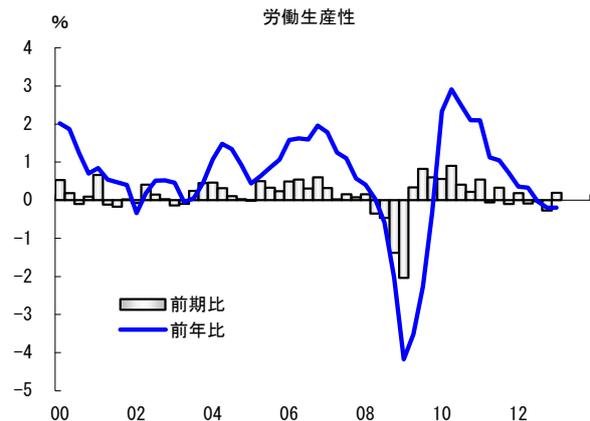
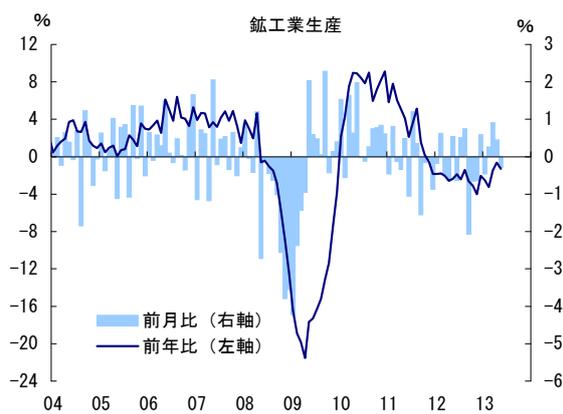
英国の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

	10Q1	10Q2	10Q3	10Q4	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1
実質GDP	0.53	1.02	0.40	-0.20	0.47	0.10	0.60	-0.11	-0.01	-0.50	0.74	-0.23	0.27
個人消費	-0.50	0.95	-0.00	0.26	-0.74	0.01	-0.09	0.35	0.06	0.35	0.13	0.25	0.34
政府消費	-0.07	0.11	-0.03	-0.02	-0.01	0.03	-0.10	0.10	0.60	-0.21	0.20	0.18	0.02
総固定資本形成	0.85	-0.26	0.60	-0.58	-0.70	0.90	-0.16	-0.17	0.59	-0.31	-0.24	-0.71	0.02
政府部門	-0.11	-0.16	0.10	-0.05	0.00	-0.32	0.11	-0.10	0.26	0.03	-0.22	0.05	-0.13
企業部門	0.70	-0.92	0.32	-0.33	-0.47	1.00	-0.10	-0.13	0.58	-0.42	-0.03	-0.84	-0.14
民間住宅投資	-0.07	0.45	0.13	-0.20	0.33	-0.22	-0.13	-0.11	-0.06	0.25	-0.25	-0.10	-
在庫変動	1.07	-0.07	0.53	-0.29	-0.09	0.60	0.94	-1.46	-0.39	0.45	0.32	0.33	-0.74
輸出	0.10	1.18	0.08	0.77	1.16	-1.67	0.32	1.43	-0.55	-0.18	0.59	-0.62	-0.04
輸入	-0.60	-0.84	-0.80	-0.35	0.85	0.23	-0.32	-0.36	-0.13	-0.51	-0.21	0.35	0.65
純輸出	-0.50	0.34	-0.72	0.42	2.01	-1.44	0.01	1.08	-0.68	-0.69	0.39	-0.27	0.61

出所：英国統計局、Haver Analytics データより大和総研作成

## ユーロ圏 生産

- 5月の鉱工業生産は前月比で-0.3%と4か月ぶりのマイナス。増加傾向にあった資本財の減少が主要因。前年比は-1.3%
- 6月の鉱工業セクター景況感は2か月連続の前月比改善。受注残判断及び在庫判断も同様に2か月連続の改善となった
- 前月比での悪化が続いていた3か月後の生産見通しも、4か月ぶりに改善

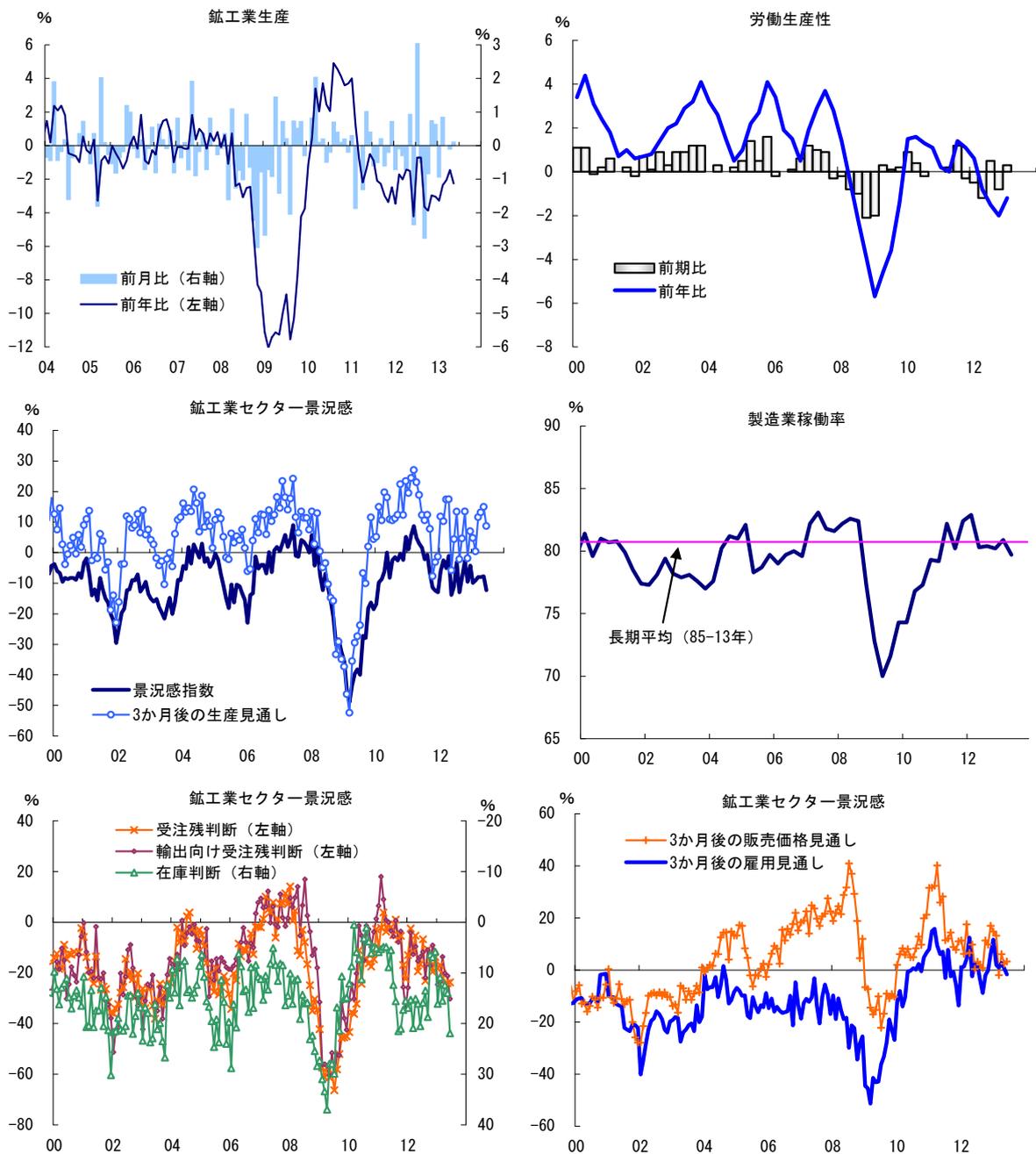


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、ECB、欧州委員会データより大和総研作成

## 英国 生産

- 5月の鉱工業生産は前月比+0.0%。前年比では-2.3%と4月より減少幅が拡大したが、12年5月の稼働日が1日多かったことによる影響が大きい
- 6月の鉱工業セクター景況感は前月比悪化。順調に改善していた3か月後の生産見通しが悪化し、在庫判断も大幅に悪化したため。受注残判断はわずかながら改善を記録
- 13年Q1の労働生産性は前年比-1.2%と4四半期連続の前年割れ。付加価値の増加と労働者数の減少により、前期比は+0.3%とプラス成長に転じた

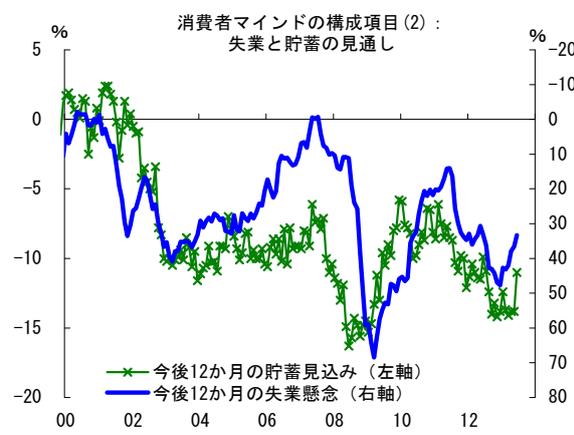
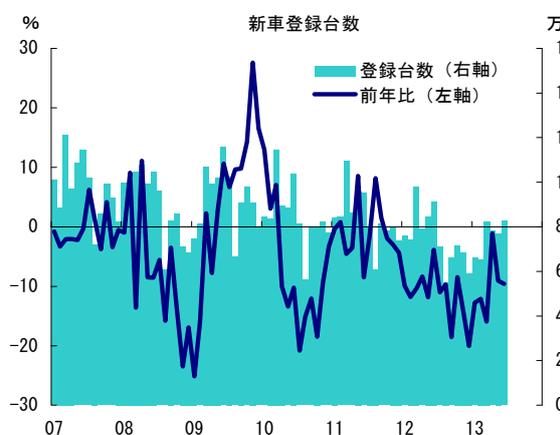
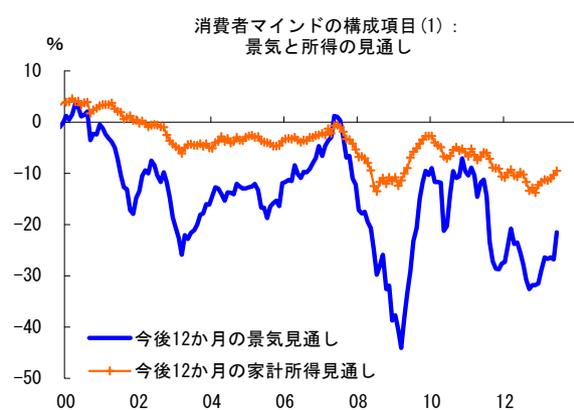
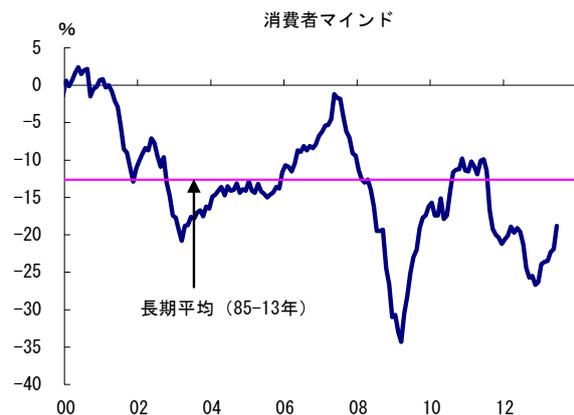
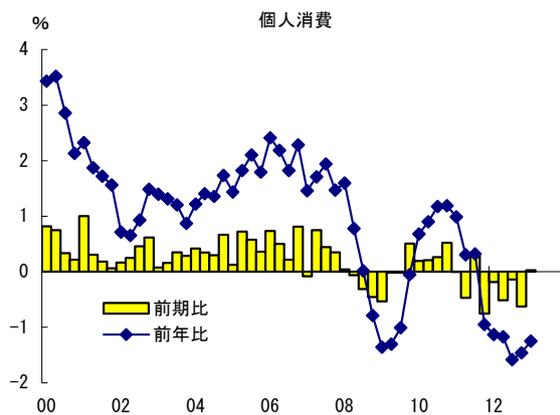


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、Eurostat、欧州委員会データより大和総研作成

## ユーロ圏 消費

- 5月の小売売上高は前年比-0.1%と減少幅が縮小
- 6月の新車登録台数は82万6千台（前年比-9.6%）となり、6月単月の台数としては過去10年で最低水準
- 6月の消費者マインドは7か月連続の前月比改善。今後12か月の景気見通しと今後12か月の貯蓄見込みが大きく改善したため

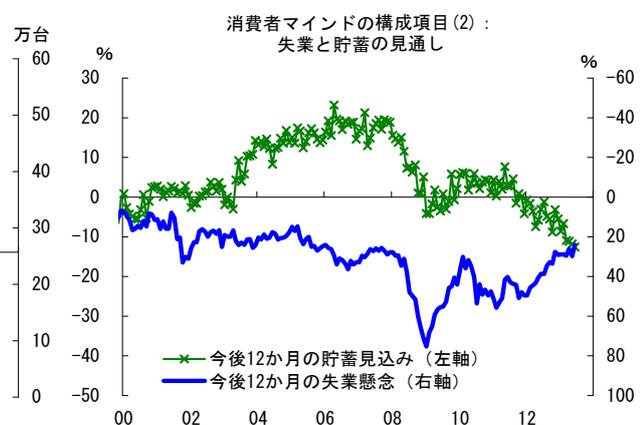
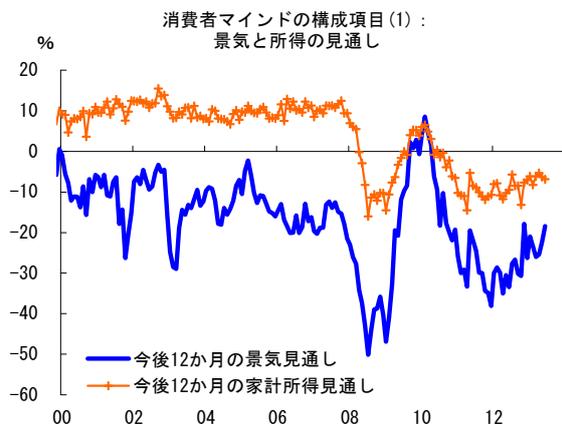
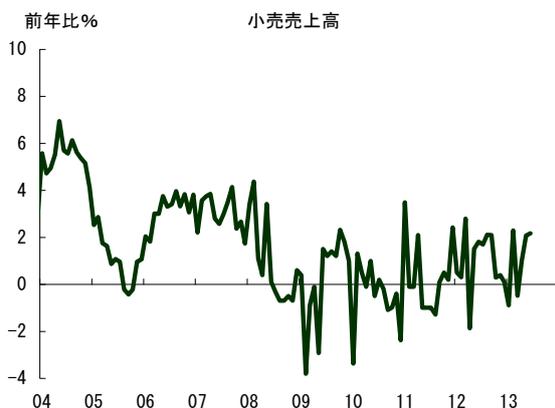
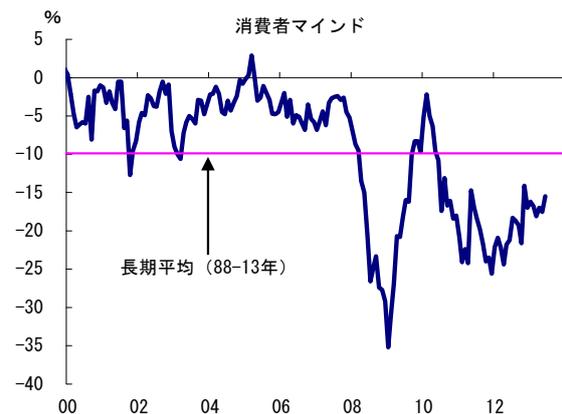


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、欧州委員会、ACEA データより大和総研作成

## 英国 消費

- 13年Q1の個人消費は前期比+0.5%、前年比+1.7%と大幅に上方修正された
- 6月の小売売上高は前年比+2.2%と5月とほぼ同水準の伸び幅。新車登録台数は、前年比+13.4%と増加傾向が継続
- 6月の消費者マインドはわずかながら前月比改善。今後12か月の景気見通し及び失業懸念が改善したため。しかし、今後12か月の家計所得見通し及び貯蓄見込みは悪化傾向が継続

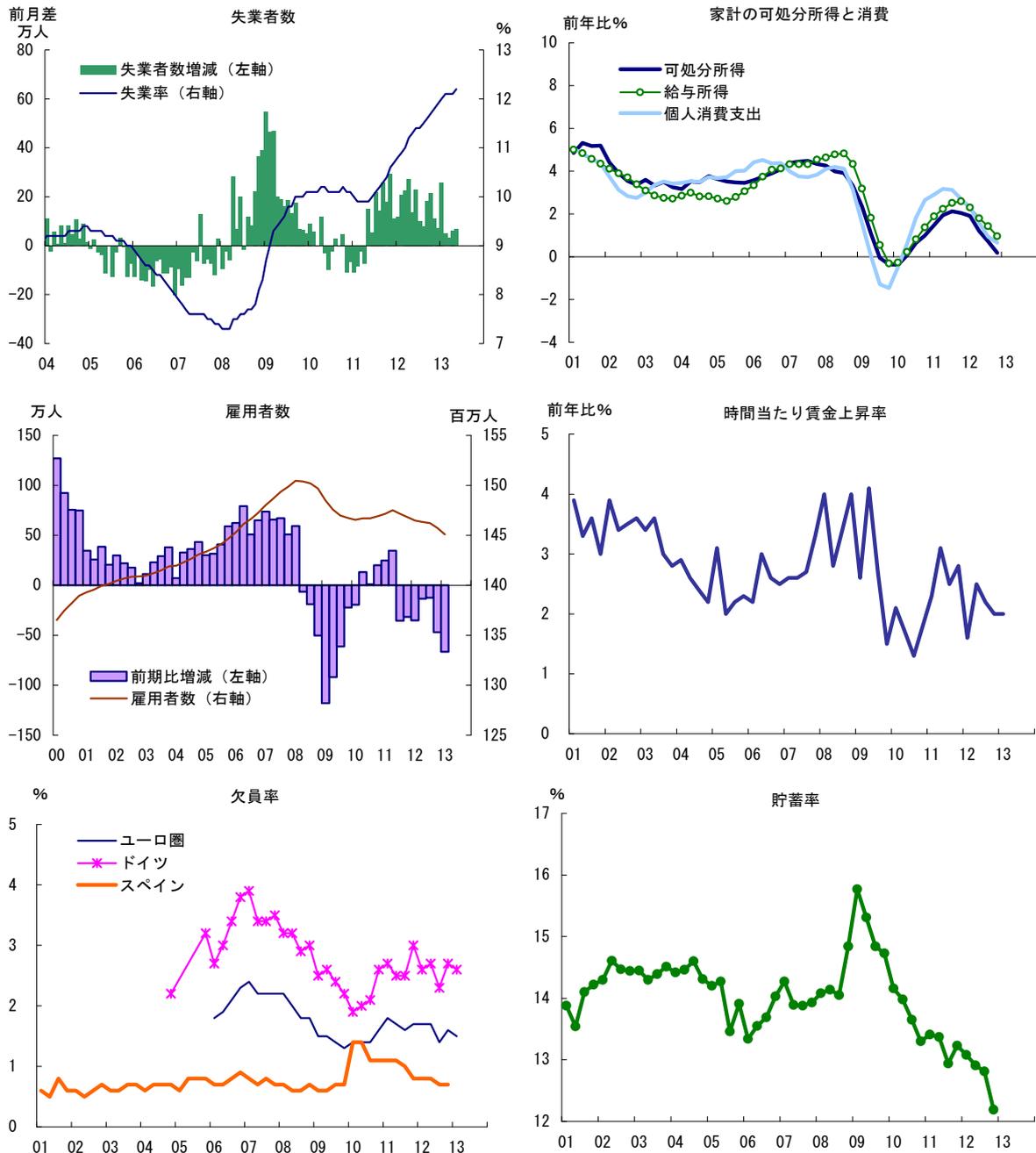


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、欧州委員会、ACEA データより大和総研作成

## ユーロ圏 雇用・所得

- 5月の失業率は12.2%とユーロ導入以来最悪の水準を更新
- 25歳未満に限ると、失業率は23.9%と過去最悪を記録した1月の24.2%から低下し、失業者数も4か月連続で減少している
- 13年Q1の時間当たり賃金上昇率は前年比+2.0%と12年Q4と同水準

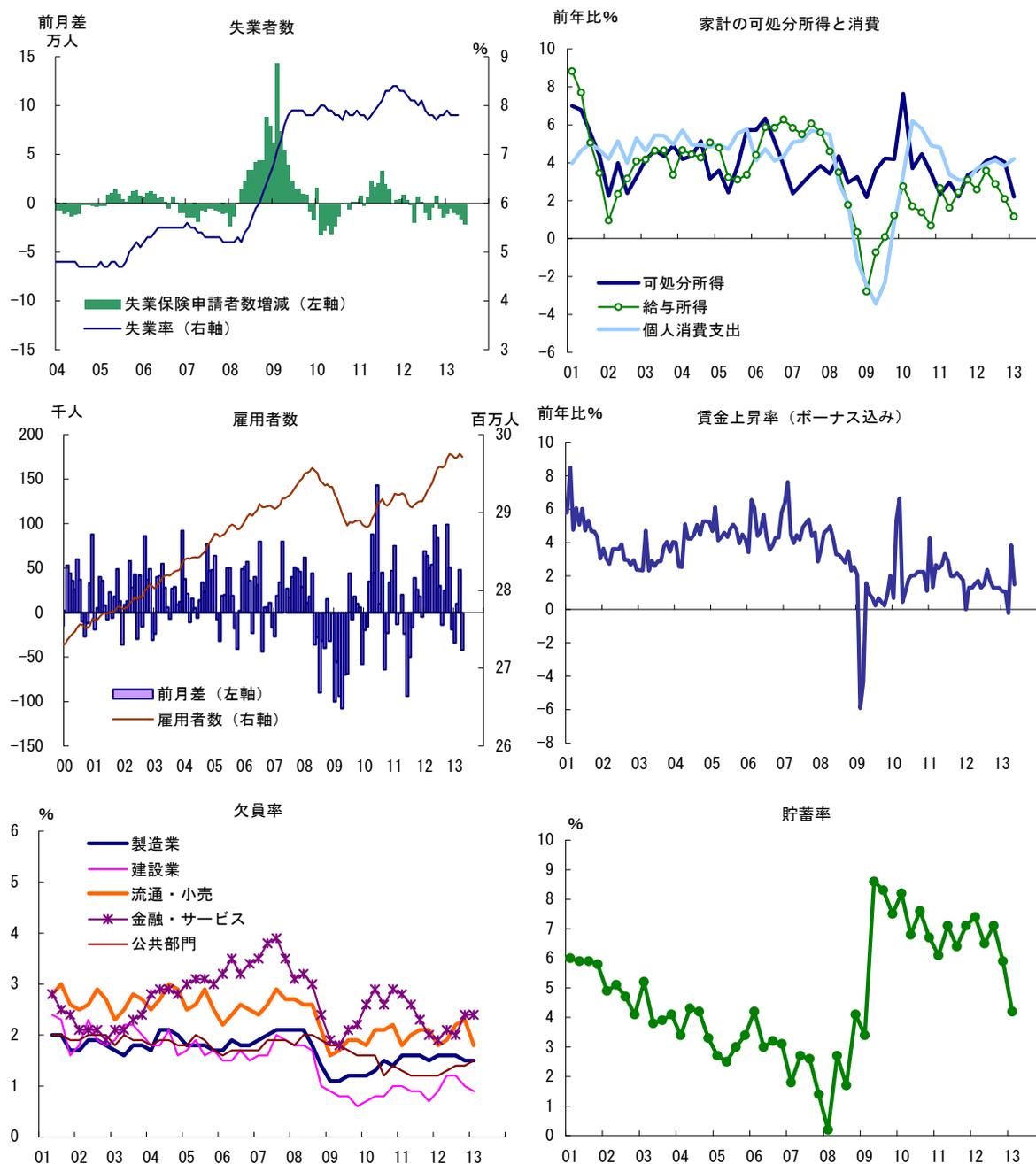


注：欠員率 (Job Vacancy Rate) =  $\text{Number of job vacancies} / (\text{Number of occupied posts} + \text{Number of job vacancies}) \times 100$

出所：Eurostat、Haver Analytics、ECB データより大和総研作成

## 英国 雇用・所得

- 3-5月の雇用者数は2-4月比4万2千人の減少に転じたが、失業率は7.8%と変わらず。労働力人口の減少幅が雇用者のそれより大きかったため
- 5月の賃金上昇率は前年比+1.5%と4月から伸び幅が縮小
- 個人消費の増加及び雇用者報酬の減少により、13年Q1の貯蓄率は4.2%まで大幅に低下(12年Q4: 5.9%)。09年Q1以来の低水準となった

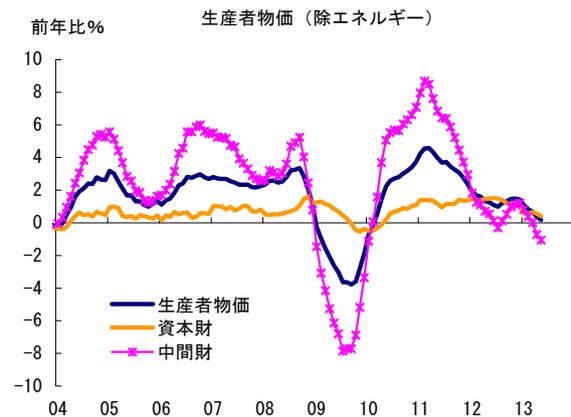


注：欠員率 (Job Vacancy Rate) = Number of job vacancies / (Number of occupied posts + Number of job vacancies) \* 100

出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成

## ユーロ圏 物価

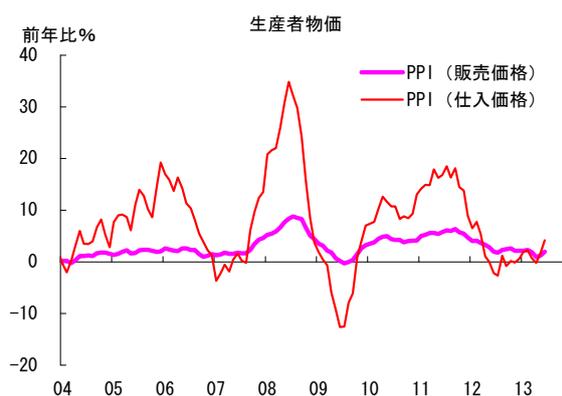
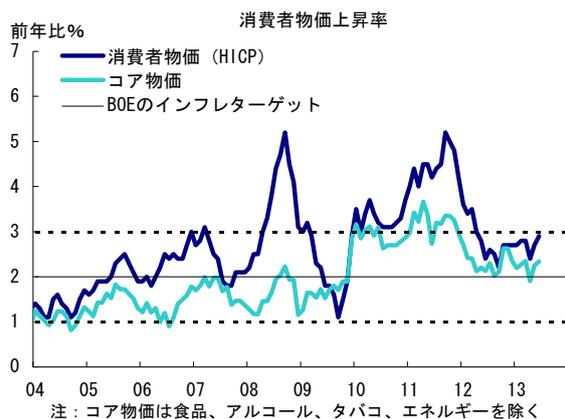
- 6月の消費者物価（HICP）上昇率は前年比+1.6%と5月より伸び加速。果物、野菜、電気の価格上昇が主要因
- 5月の生産者物価は前年比+0.2%。うち、中間財は同-1.1%と価格下落が鮮明に
- ユーロの名目実効為替レートの上昇に伴い、5月の独輸入物価は前年比-2.9%と低下傾向続く。6月のユーロの名目実効為替レートは4か月ぶりの水準まで上昇



出所：Eurostat、ECB、ドイツ連銀データより大和総研作成

## 英国 物価

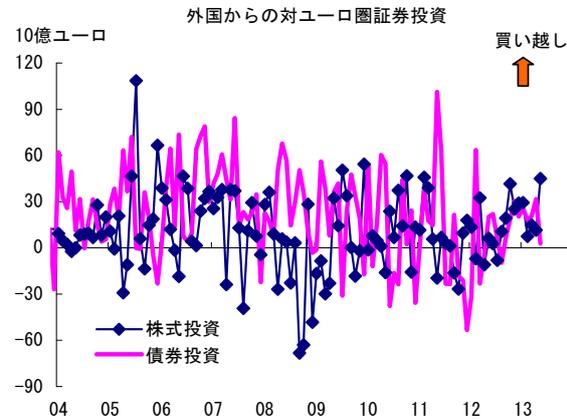
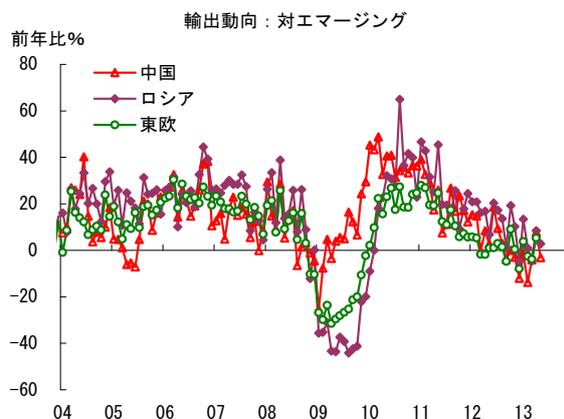
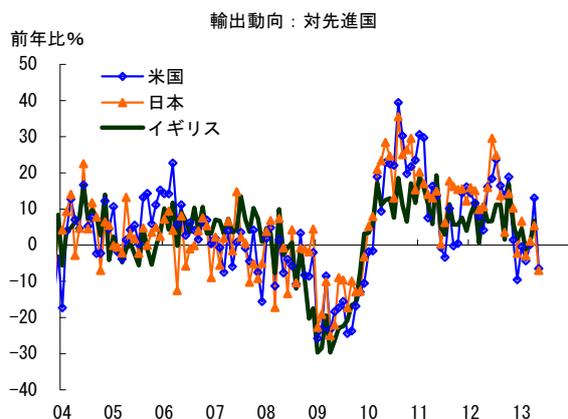
- 6月の消費者物価（HICP）上昇率は前年比+2.9%。財価格は主にエネルギー価格の上昇により、同+2.6%と伸び加速
- 6月の生産者物価上昇率は、食品価格上昇により販売価格は前年比+2.0%。仕入価格は主に輸入材料価格の上昇により、同+4.2%と伸びが加速した
- 5月の輸入物価上昇率は前年比+0.7%。6月のポンドの名目実効為替レートは上昇傾向に



出所：Eurostat、英国統計局データより大和総研作成

## ユーロ圏 国際収支

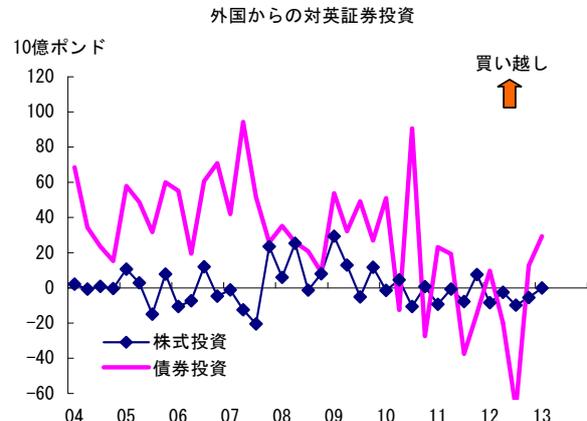
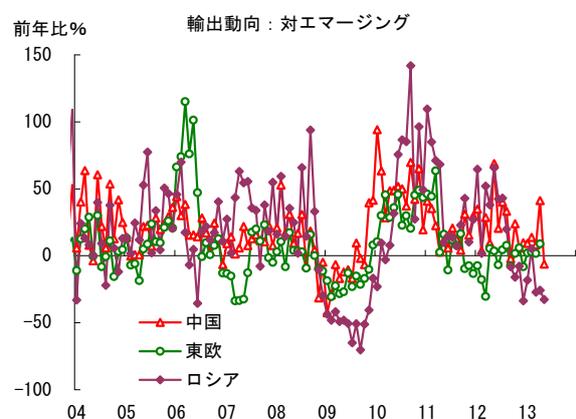
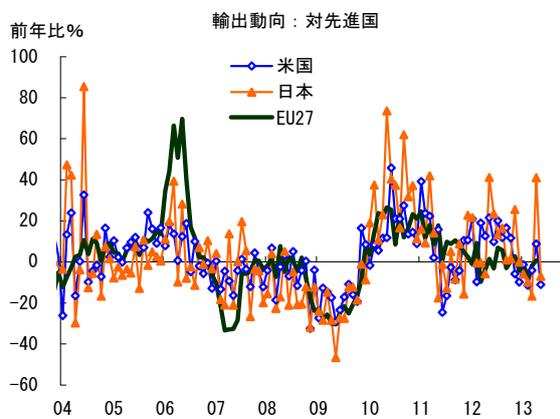
- 5月の輸出は前年比-0.1%、輸入は同-5.7%と共に前年割れに転落。工業製品が輸出入減少の主要因。6月の輸出向け受注残判断は、前月比でわずかに改善
- 国別輸出動向を見ると、米国、日本、中国向けが前年割れに転じた
- 5月の経常収支は、所得収支赤転により黒字幅縮小（95億ユーロ）。外国からの対ユーロ圏証券投資は9か月連続の買い越し。前月比で株式の買い越し額は増加、債券は減少



出所：Eurostat、ECB データより大和総研作成

## 英国 国際収支

- 5月の輸出は前年比 $-0.9\%$ と前年割れ。一方、輸入は同 $+0.5\%$ とプラス成長。輸出入ともに燃料の影響が大きい。6月の輸出向け受注残判断は、3か月連続の前月比悪化
- 13年Q1の経常収支は145億ポンドの赤字。赤字幅拡大の主要因は、英国に対する直接投資の収益増加により海外への支払いが増加し、所得収支が赤字に転落したこと
- 13年Q1の外国からの対英証券投資は、株式投資が5四半期連続の売り越し。一方、債券投資は2四半期連続で買い越しとなり、買い越し金額が拡大した



出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成